

# わたすへ通信 #3

2025年4月号

久しぶりの更新！  
綴りたいことがありすぎて  
収まりませんでした。

いっせー、すっかり3ヶ月くらい間が空いてしまいました。  
皆さんお元気ですか？ 久しぶりのわたすへ通信です。  
ちょっと年末～年度末にかけてバタバタしまして、なかなか筆を  
とることができておりませんでした。楽しみにしてくださっていた方、  
すみません(´▽`)



この約3ヶ月間も、ありがたいことにイベントもたくさん行いました！  
アート展示や能登の土映画&トークイベント、メンバー組を呼び  
寄せたトークイベント。また、「rebake」さんとのコラボで「パンを  
売るイベント」までありました。私のゼリたかった、階上にいながら13人は伊本馬場や知りに触れられる機会  
をつくることが出来たのではないのでしょうか。ただ、反響が凄まじく疲れてしまったり（もちろん参加した  
かったー！）、3月は地域おこし協力隊のあつち各所で  
報告会をしていただき、またプライベートでは結婚＆引越  
しもあり、とにかく目まぐるしい日々でした。



4月に入り、少し落ち着いたのでまた気持ちを変えてわたす  
へ通信を再開しようと思います。書きたい、伝えたいことはたく  
さんです!!!

## 自治のはじまり、自治のおわり

身の回りの自然を守っていくことについて、自分たちの範囲として捉えた方がより良い共生意識が  
育つのでは、と最近よく思います。まさに「それは私たちの仕事じゃない」というような「持ちど  
これまで」生きてきてしまったのですが、3年前に福島県葛尾村に滞在していた際にそれを痛感  
しました。

とにかく自然がきれい、でも人の手がかけられていない自然  
ではなく、住民たちの手によって整えられている、共生している  
自然という感じで。

それを自治体としてセリ養生するのはない、住んでいる人たち  
によって手をかけていくべきなのかなと思います。私にすぐ何かを  
できるわけではたはいかもしませんが、近々ごみ拾い×お散歩  
×コーサーみたいな活動もしたいなと思っています。

あとは、今の生活の中にその余裕がないにも要因なのでしょうか。しかし、私の両親や祖父  
祖母は家の周りの植物は手をかけていたので、完全に現代人（わたし）の甘えだと思っています。こ  
簡単に得られる娯楽が多すぎるんですね。知らない間に時間が溶けてるんだと思うなあ。  
時間があれば消費してしまう、ということを見つめ直したい今日この頃です。☁



自分たちを  
葛尾村の  
綺麗な川  
に写して  
真

## 自分のコップを満たしておく

私は多くの人を幸せにはできない。つくづく優しくない人間だと思ってしまうけど、  
顔の見える範囲でしか正直幸せにする気になれない。その代わりに、関わった人を幸せ  
にすることで、またその人がその先で関わった人が幸せになることで、幸せが広がって  
いくということを描けば自分も疲弊せずに描きたい未来が叶えられるような気がする。  
なんの確証もなく、何年かかるかも分からないけれど、日々私がご機嫌でいよう。

# 生きたい、ということは 死を意識することとイコールなのかもしれない

(もし読んでいて不快でしたら飛ばしてください)

たぶんなく、ずらと「死」が近くにあるというか、(1)死んでも後悔しない感覚で生きている。多分それは、マインドセットどうこうっていうよりも、中学生の時に経験した東日本大震災のことで、社会人1年目で経験したコロナウイルス蔓延、また、最近では能登の震災など、若いうちから節目節目で死を考慮することが多かったからだと思う。

また、それがSNSでも流れてくる。当時のニュースや映像が、日常的に見ているSNSで流れてくる。簡単に角が取れることができてしまう。忘れた頃に流れてくるものだから、その度に心とさせられる。そういった意味ではSNSも悪くないと思っただ。私がまだ生まれてくる前の戦争のことや、戦時中の生活のことなども流れてきたりする。死と向き合い、今の生き方について考えさせてもらうことができる。

だから、(1)自分がいなくなっても良いように事業運営も考えている。目には見えにくい、私の遺伝子だけは残していきなげがら。



## 番外編 最近のボケの話。\*\*\*



忘れた物が「多い」というか、置き去りにしてしまうものがとにかく多い。トイレで相上やら、荷物を置くとすっかり忘れてしまう。特に最近、長距離移動車が多いので本当に「最悪」だ。飛行機でいえば、値の張るワイヤレスイヤホンを席のポケットに入れたまま無くすし(電話で問い合わせたけど無いと言われた)、駅構内のトイレでリュックを忘れたら乗ってしまったり、新幹線内では「キャリーバック」を上に置いたまま降りてしまったり。と、とにかく置き去りにしていくものが「多い」。なにかいっても、自分が「悪いの」にこういう自分にイチャイチャ凹んでしまっていて、そんなことで凹んでしまっている自分にも辟易としてしまう。でも、こういうことがある度に「たぶんかかればか」メンタルも強くなっている。案外、計画的に、慎重に「よりよい」方が「行きあたり」は「た」を種々置ける、わたしが「強固」になっていくのかもしれない。

無駄なことは  
何一つなかった。

自分のことを「器用貧乏」だと思えている。幼少時は野球に明け暮れていた。中学生の頃から「読」たギターはほとんど晩前に。歌うことも大好きだ。両親が難聴のため、福祉業界のことはそこそこ知っているつもり。古着や古道具、カメラも少し好き。コピーもどもどれもどれか中途半端で「何か」に特化している人に憧れがあった。何に手を出しても極められな「自分」に劣等感があった。でも、わたしの素パーズにたどり着いた。階上には何もな「よ」。田舎は不便だし「よ」とよく言われる。でも「よ」思っ。「何もな」からこそ、自分で作りだせる「よ」ないか。そう思ったとき、今までの「中途半端」だと思っていた自分の持ち物のどれもが使えることに気づく。わたすに大好きな古道具が置ける。福祉の知識があるから、ほんの少しだけ他人を想像できる気がする。わたすの素敵な事を、来てくれた人たちの事を、カメラで残せる。そして日々感じたことを歌にできる。どこまでいっても「素人」ではあるが、「好き」を突き詰めていくと「無駄」も無駄じゃなくなる。そんなことをわたすの素パーズは教えた。2025年3月、階上町へ引越してきました。上野健登(ウエノケント)と申します。液ケントという知義でシンガーソングライターもやっています。わたすの素パーズにも立ちます。ライブもやっています。よろしく願います。